

2021 vol.111 11 Legend

エンターテインメントの

実行 その⑧



創業者 檜垣 俊幸

「エンターテインメント精神」を持って生きる

コロナ禍も加わって、出口の見えない時代が続いています。経済、金融、外交、企業経営、文化、何一つとして先の見えていないものがないように思えてなりません。しかし、実は、こんな時代だからこそ突出した仕事ができるチャンスでもあるのです。歴史を振り返ると、例えば幕末から明治の混沌とした時代に先が見えていた人はほとんどいませんでした。だからこそ、今話題の渋沢栄一など、そんな時代にビジョンを描ける人が活躍できたのです。先が見えない時こそ、何かしかのビジョンを描くことによって活躍の場を作ることができるのです。実際にこのコロナ禍だからこ、その新しいビジネススタイルも数多く生まれています。「こんな時代だからこそ」という心持ちを生み出すものを私は「エンターテインメント」と呼びます。

「エンターテインメント」という言葉から受けるイメージは一般的に映画や演劇などの娯楽でしょう。しかし、「エンターテインメント」という言葉がそんな狭い領域で収まらないことは皆さんも周知のことだと思います。私は、人がワクワクしたり生き生きしたりするきっかけとなるものが「エンターテインメント」だと思っています。だから、そういった「ホスピタリティ精神」を持った人なら「エンターテインメント」は誰にでもできるものなのです。「エンターテインメント精神」を持って生きることによって人生が明るく見え、ビジネスが楽しくなりますから仕事が成功するという道筋が出来上がります。こんな「エンターテインメント精神」をもって生きていく主義こそが「新・快樂主義」なのです。「快樂主義」という悪いイメージを持つ人もいますが、本当の快樂の追求は取りも直さず人間の文化や社会の進化に関わることで、私は全く悪いこととは考えていません。しかし、「自分一人が楽しければOK」というような「快樂主義」が横行すれば社会が破綻するのは目に見えています。私はそのような「快樂主義」を「享樂主義」として区別



adtain
adproject-entertain newspaper

モデル：Anastasia T / Height:156cm B:83 W:59 H:86
事務所：ARTRICK ENTERTAINMENT (アートリック) <http://artrick.com>

adtainとは、adprojectとentertainが融合した「おもてなし」のトピックス誌

しています。確かに「快樂主義」という言葉から受けるイメージは享樂的なものであることはどうしても拭えないでしょう。ということで「新・快樂主義」とした次第です。

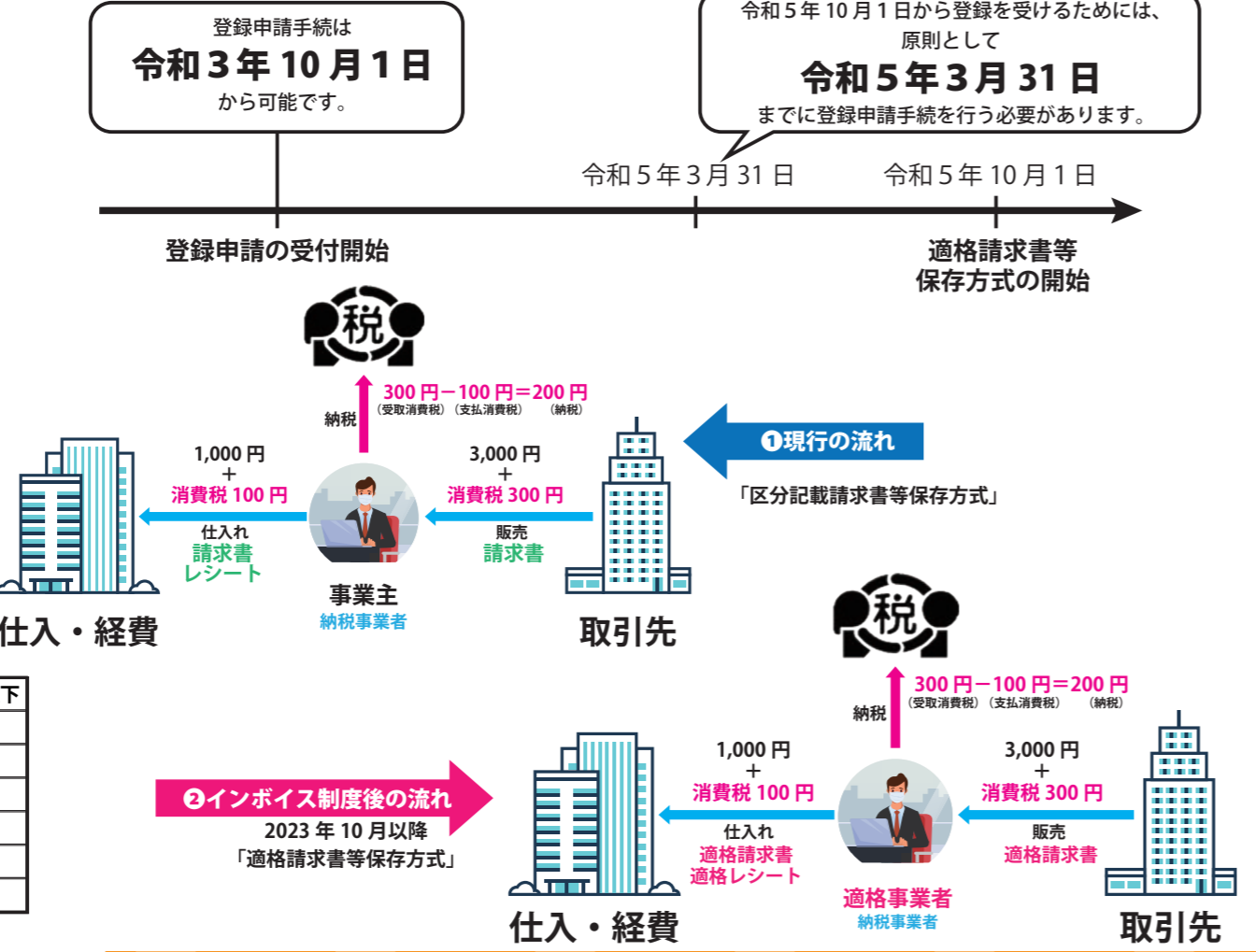
人の気持ちになる第六感のコミュニケーション

第六感の働き方は人によって違います。聴覚に優れた人は聴覚中心になり、視覚に優れた人は視覚中心となるでしょう。ところが現在の社会はこの第六感でのコミュニケーションが非常に下手です。それは、どうしても五感のうちのどれか一つに依存したがるからでしょう。第六感が発達すると瞬間的にいろんなことを感じるようになります。その感覚は言葉では説明しにくいものですが、私は何かのプランニングを頼まれると、この第六感を使って企画しました。だから瞬時にプランの概要が浮かぶのです。私は第六感というものを五感の編集だと考えていますから五感のデザインを変えることで、どんなプランにも対応することができるのです。でも、どんなに五感が発達していても、このデザイン能力がない人には第六感による瞬間的プランニングは難しいでしょう。例えば修行を積んだ料理人が素材を見た瞬間に何の調理をするかを感じたりするのは、この第六感を使っていると思われる。エンターテインメント性を磨く「新・快樂主義」で生きるためには、いろんな人の気持ちになってみることです。あるときは消費者の気持ち、ある時は政治家の気持ち、ある時

は子供の気持ち、ある時は女性、男性の気持ちなど。そうすることによって「ホスピタリティ」を身につけ、エンターテインメント性を発揮し始めるのです。そのように生きていくと、いつしか五感が研ぎ澄まされて第六感が働くようになっていきます。第六感とは五感の統合ですから五感が鋭くなれば第六感もスムーズに働くようになるのです。瞬時に様々な企画を生み出すのは、その企画を楽しむことになる人の気持ちに瞬時に自分になってしまふからです。もし自分があの人の立場でそこに行った時、何があつたら嬉しいか。それがパツとひらめくのです。だからこそ、その企画は楽しいものになります。他人の気持ちになれずに独りよがりな考えで企画を立てても、うまくいかないのは当たり前なのです。つまり「メーカー」や「プランナー」と言われる人たちに必要なのは他人への共感能力なのです。他人に共感できる人ほど人が共感するものを見出すことができるのです。人が共感する何かを作り出そうという意思是「もしこんなものがあつたら、人は喜ぶだろう」という使命感を生み出します。ウォルト・ディズニーは家族全員と一緒に楽しめる場所があつたらどんなに素敵だろうという意味で、ディズニーランドを作りました。ウォルトが抱いた使命感によって生まれたその場所が世界中の人々が楽しい時を過ごし続けています。(次号へ続く)

Keyword：インボイス制度（1）

いよいよ消費税の大改革ともいえる「インボイス制度」導入に向けた手続きが先月(10/1)からスタートしました。このインボイス制度とは、ザックリ言うと、国税庁があらゆる取引を把握して、そこに消費税をかける制度で、これまで見逃されていた「益税」がかなり減ることになります。ここで言う「インボイス」とは、一般的に海外で使われている invoice (送り状) とは違い、消費税納税者の登録番号付き請求書 (適格請求書) を指します。この制度は、2年後の2023年10月1日からスタートするもので、既に企業などは登録手続きを行っているところが多いと思います。ただ、中小企業や個人事業主の方は、まだこの制度を知らない人も多いと思います。特に BtoB を主軸にしている個人事業主の方にとっては残酷な制度になるかもしれません。弊社の取引先にも個人事業主の方が多いいらっしゃるし、今後、取引をする際に避けては通れない制度になりますので、最低限の仕組みは知っておく必要があります。実は、このインボイス制度導入の布石は、消費税が8%から10%になった2019年10月に打たれていました。それが消費税の「軽減税率制度」です。消費税率10%への引上げに伴う低所得者への配慮の策として、飲食料品と一定の新聞の譲渡を対象に実施されています。これこそが、「複数税率」の始まりであり、これによって税率を上げやすくしたわけです。そして、2023年10月からは複数税率に対応した仕入税額控除の方式として「適格請求書等保存方式 (いわゆる「インボイス制度」)」が導入されることになります。これは、全ての事業者 (個人事業主や企業) に大きく関わってくる制度ですので正しく理解しておかなくてはなりません。このインボイス制度が導入されることによって、これまで発行していた普通の請求書では通用せず、国税庁が望む税率毎に項目を分けた、全く新しい請求書を作らなくてははいけません。元々現在の消費税は、1970年代に始まった物品税からスタートしています。そして今の消費税の雛形ともなったのが、フランスで発明され、ヨーロッパを中心に広がり始めた VAT (Value Added Tax) 方式で、低い税率で薄く広く税金を掛ける結果、国の税収が増え、しかも脱税もし難いと言われる「バトンリレー方式」です。竹下政権の時、既にインボイス制度の導入を考えていましたが、国民の大反対に遭い、1989年に消費税が導入されましたが、帳簿方式と免税点 (事務負担が大変なので、売上が3,000万円以下なら消費税の納税が免除) という形でスタートしました (左下表)。では、このインボイス制度が導入されると、どのような事態になるのでしょうか。①図は納税事業者が一般的に消費税を納税する際の「バトンリレー方式」の仕組みです。取引先から預かった消費税を、仕入れ先に支払った消費税と差引した差額200円を納税するのが現状ですね。それが、2023年10月以降は、登録申請して適格事業者になった場合、適格請求書に基づいて取引先から受け取った消費税を、同じく仕入れ先から適格請求書に基づいて支払った消費税を差引いた差額200円を納税することになります (②図)。何が違うかというと、「適格請求書」というものが必ず必要になるということです。もし、2023年9月まで登録申請をせずに、「非適格事業者」となった場合、これまでとはどう違うのかについては次号で解説します。



1989年	消費税導入 (3%) 免税点3,000万円以下
1997年	3%→5%へ 帳簿+請求書必要
2004年	免税点1,000万円以下へ変更
2014年	5%→8%へ
2019年	8%→10%へ 軽減税率導入
2021年10月	適格者の登録申請手続開始
2023年10月	インボイス制度開始

DAN★DAN

弊社所属ユニット

DAN★DANの啓太です。先日、僕達初めての試みとなります、PVの撮影を行なってきました。今まではイラストのみのMVでしたが、今回は映像として自分達も出演する事にしました。今までの経験を活かして構成などはゼロから作り込みました。スタッフの方々に場所の手配などケアをしっかりと頂き、演技はとてもナチュラルにできました。チーム一丸となって素敵なPVを撮る事が出来たと思います。冬のバラード曲で僕達が自信持ってお届け出来る最高の作品になりましたので、完成をお楽しみに！
写真は今回のPVに使ったものです➡

公式ホームページ

夏の海辺の回想シーンで使った写真

日常を表現するシーンで使った写真

PV序盤の夜のシーンで使った写真

ご意見・ご感想は adtain@adproject.co.jp まで メールでお寄せください。
発行：株式会社エディープロジェクト 〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-4 www.adproject.co.jp

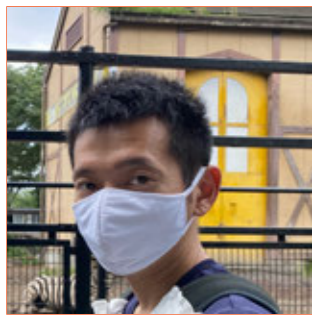
adproject 公式 facebook を check

adproject がお届けするエンターテインメント情報を随時UP!!

皆様の いいね！をお待ちしております。

facebook adproject

もしくは、<https://www.facebook.com/adproject.japan>



阪本 崇裕

■Title：我が家の掃除グッズ達

お久しぶりです。今年で主夫6年目となりました。最近よく「年末の大掃除どこからやるかな」と考えることが多くなりました。皆さまも大掃除とはいかなくても、いつもより気合を入れて掃除をしたいと思いますので、私なりのオススメお掃除アイテムをご紹介しますと思います。

①スチームクリーナー

我が家にもハンディタイプと床用のモップタイプの2つ揃えています。子供がいると床に食べ物をこぼすし、飲み物もぶちまけるし、非常に汚れることが多いので「菌」の温床にもなりかねないため、汚れを落とすつつ高温の蒸気で除菌しています。夏場、足の裏が汗でベトベトする時はスチームクリーナーが非常に使えるのでどの季節でも万能！キッチン、風呂場、洗面所、窓などなど洗剤を付けずとも油汚れもカビもパッチリ落とすので我が家では必須アイテムとなっています。



②高圧洗浄機

洗車用に購入された方も多いのではないのでしょうか。こちらのアイテムは網戸や駐車場の苔玄関回りやカーペットなどに使用しています。車のフロアマットを掃除機かけてもホコリや挟まったゴミが取れずストレスになりますが、高圧で吹き飛ばして干すだけで綺麗サッパリ！電源が必要なのである程度、時間のある時しか活用できませんが大掃除の時短には大活躍されています。



③磁石収納トイレブラシ

ニトリで売っているこのブラシ、磁石収納できるためブラシ面が底に当たらず浮いているので非常に汚れやすく掃除しやすいので衛生的にも良いアイテム！この商品に出会うまではトイレ掃除って収納時に飛んだら厄介だし面倒だと思って後回しにしがちでしたが、収納時の飛び跳ねを気にせず磁石に付けるだけなので、気構えずに掃除ができるので掃除する回数が増えました。いつでも手軽に掃除できることが何よりも重要なんだと教えてくれるアイテムです。



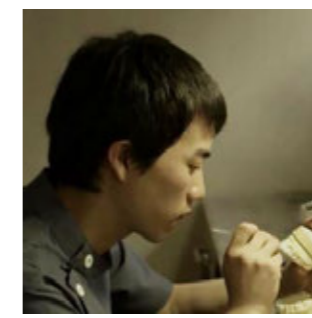
まだまだ、主夫6年目の新参者なのでベテランの方々には遠く及ばないと思いますのでウチではこんなアイテム使っているよなど、オススメがありましたら是非ともお教えてください。※皆さんは冷蔵庫の下はどうやって掃除しているのだろう。。。

Project 1.

コラ
P
Producer's column

家庭菜園だより
CHAIRMAN：岩澤 二三夫

①大根成長中。収穫時期調整で、手前は二週間後に植えました。収穫は12月から2月。
②玉ねぎ 100本植えました。収穫は6月梅雨入り前。今から収穫が楽しみです。



土井 晃範

■Event：Topic of sesame

皆様ご無沙汰しております。オリンピックイヤーの2021年も残り僅かとなりましたね。私事で言うと、先日娘の小学生最後の運動会を見に行きまして、コロナの影響で半日開催でしたが、ビデオカメラのレンズ越しに一日中娘を追いかけてきました。私達の頃とは違う競技がいっぱいあり、生徒で考え・用意をしたものばかりで色々勉強になった一日でした。



ハロウィンが終わり街はクリスマス一色となって、それが終わるとお正月。今回はハロウィンで大活躍してくれたセサミストリートについてのご案内です。

弊社で管理し、イベント展開している「セサミストリートキャラクター」のHPをようやく立ち上げることが出来ました！エルモ達のお茶目かわい笑い声を関西地方以外にも届けたいと思っています。



ぜひ一度、サイト (<https://www.adproject.co.jp/sesamestreet/index.html>) を覗いてみてください！！

SUNRISE SUNSET TOURING RALLY



PRESIDENT：檜垣 俊吾



先月の「Door of Adventure」に引き続き、SSTRに参加してきた。SSTR(サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリー)は、世界的なオートバイ冒険家・風間深志氏がバリ・ダカールラリーで自身が味わった海岸をヴィクトリーランのような体験を、多くのライダーに味わってもらいたいと発案した、オートバイによるツーリングイベント。基本ルールは、日の出とともに自身で定めた日本列島の東の海から昇る朝日とともにスタートし、太陽を追い駆けながらチェックポイントに立寄りながら日本列島を横断し、日没までに日本海の千里浜(石川県)へ沈む夕日に間に合うよう、ゴールするというシンプルなもの。2013年に初開催されて以降、年々参加人数は増え、コロナ渦である今年はGOALを3週に分けた分散型形式開催ということもあり、参加者は5,000名を超えた。ゴール地点で弊社スタッフがブース運営をしていることもあったり、片道600kmを超える先にどの様な感動が味わえるかなど興味があつた。参加当日、必ず雨に出会うであろう天気予報の中、お台場で辛うじて見えた日の出からスタート。必ず寄らなくてはならないチェックポイントの中から、まずは府中の大國魂神社に立寄り、そこから一気に高速で千里浜を目指したが、なんとGOALは土砂降りの雨と強風。ゴールに立ち並ぶ出展ブースは、もはや撤退作業中と全く感動のない走り終わった。今回の自分へのご褒美は現地ですした「のどぐろ」であった。



Project 3.

PRODUCER：松延 智明

■Event：ついに緊急事態宣言解除、山口県へ行きます！

■Date：11月

■Place：山口県



緊急事態宣言が解除されました。みなさまのお仕事ぶり、生活ぶりに変化はありましたでしょうか。当誌、adtainという媒体は、弊社の魅力を遂行した仕事を通じてお知らせすることです。わたくしことでは、いろいろみなさまにアピールしたいことはたくさんあるのですが、お客様からいただくご依頼のほとんどは常に守秘義務を前提に組み立てられており、個別案件の詳細をお知らせすることができない悩みがあります。

悩みと言えば、お客様とお打ち合わせ。コロナ禍以前は、スケジュールを組んでの対面のお打ち合わせ、メールのやり取り、電話などの手段でした。これがWeb会議システムに置き換わり、対面での空気が伝わりづらくなるという負の面が大きく仕事の進捗に影響しました。

我慢の仕事が続く中、ついに緊急事態宣言が解除され、約2年ぶりに出張取材の依頼がきました！振り返ると、それほど長い間、遠征ができなかったのだと気づき、取材同行者一同、喜んだものです。取材現場は山口県。なら、美味しい日本酒を肴とともに…と思ったのも束の間、始発の新幹線で移動して、終電で帰ってくるという弾丸ツアーが決定。本来ならば、当日入りは交通機関が止まるなどのリスクがあるため、前日に現地に入るのが基本です。しかし、今回はお客様も含めて、全員、前日の都合が悪いという珍しい事態となり、決行されることに。東京を朝一で出て、お昼前の新山口駅を背に現場に向かい、真っ暗な中に浮かぶ新山口駅に吸い込まれて帰京する…せめて、駅弁でも楽しみたいなあ…と、少し残念な想いもありつつ、でも、やっぱり現場に行ける楽しみのほうが強いのが不思議です。あ、でも…今回は時間がないので、帰りの新幹線の中で文章を作らなければ、みなさんに迷惑がかかってしまうかも。いや、お弁当くらい…と、つまらない妄想が膨らむ日々の出張です。取材・撮影、制作、みなさまからのご依頼お待ちしております！



第2プロジェクト

佐藤 さら

弊社の所属タレント「堀田竜成」が、2021年11月13日(土)に「ほりたりんぐ2021」を開催しました！密を避けるため2部制で行いました。イベントは、ライブ&トークショー形式で実施し、ライブでは自分自身で作詞を行った新曲2曲(・つなぐ・四つ葉〜幸せはそばに〜)をライブ初披露致しました。トークショーでは、ゲストに「沢城千春」さんをお呼びし、お客様参加型のイベントとなりました。今回、「ほりたりんぐ2021」の会場で新グッズも発売しました。普段使いしやすい商品が多く、こだわりの商品ばかりなので、是非公式ホームページでもチェックしてみてください。いつもご来場頂いているファンのお客様や、初めてイベントにいらっしゃったお客様まで皆様笑顔になって特別な時間を共有できた素敵なイベントになりました。



Project 2.

Project 4.

PRODUCER：岩下 信而

■Event：Moon River

■Date：2021年11月

■Place：御成門、万世橋



感染症予防時期だからこそその演出による希少なイベントを続けて担当した。いずれも弊社の長きにわたる重要なお客様。先週は日本を代表する珈琲企業のコーヒーマシンのエンジニアたちが、その技術を競う社内コンテスト。例年は社内でも選りすぐられたエンジニアが一堂に集い、熱戦を繰り広げていた。今年は全国8地区から同時にWeb会議システムでメンテナンス技術を競い、東京本社をテレビスタジオに見立て、女性MCと担当社員が実況、その模様を、グループ社員に向けライブストリーミング配信。オリンピック取材の欧州のマスコミが絶賛した、日本のコンビニのレベルの高さ、2.4時間おいしいコーヒーが楽しめるのは、このエンジニアの皆さんのおかげなのです。

続いては、米国政府機関の米国産食品飲料の輸出促進商談会。「明日でも来日して商談したいYo!」というアメリカンと、「年内は、出社は週2回」という日本企業の温度差の中、10社以上の在米企業と100社近くの日本のバイヤーに参加いただいた。最長12時間という時差の関係上、午前9時から12時は、日米Web商談、並行して夕方までは、ご来場者をお招きしての商談会という変則的なプログラム、実はこの原稿は準備中の会場で書いています。配信準備、ブースの準備は完了、あとは出展企業とご来場企業の笑顔を作り出すのが弊社の使命。



コーヒーとアメリカと役者が揃ったところで、今月は「Moon River」(1961)。「とても広いムーンリバーを、いつか堂々と私は渡る。夢をくれるのも、がっかりさせるのもあなた、あなたが行くところなら何処へでもついて行く」。NYのティファニー本店を、ウィンドウショッピングをしながらテイクアウトのパンとコーヒーで朝食をとるホリー。「ティファニーで朝食を」のファーストシーン。オードリー・ヘプバーンは歩きながらの飲食もエレガント。彼女ならきっと、センター街でタピオカと唐あげを食べながらでも、優雅に闊歩することでしょう、では次号 Ciao!

